

令和6年5月24日
教 育 相 談 課

令和5年度オンラインを活用した不登校児童・生徒への支援事業に係る報告について

1 主旨

令和5年6月から事業開始したオンラインを活用した不登校児童・生徒への支援事業について、事業開始から10カ月を経過し、1年目の取組み状況を以下のとおり報告する。

2 支援内容

(1) 支援プログラムの内容

複数の支援プログラム（学習支援、居場所支援、体験プログラムの提供、個別学習支援、保護者支援）をオンライン上に仮想の部屋を設けて実施する。

支援プログラム名	個別・複数 対応の別	1回につき児童・生徒が 入ることができる人数等	実施場所
学習支援	複数	100名	・「スタディールーム」にて 授業動画視聴 ・「ホームルーム・イベント ルーム」にて自習
居場所支援	複数	100名	・「リラックスルーム」にて 実施
体験プログラ ムの提供	複数 (月1回)	100名	・「イベントルーム」にて実 施
個別学習支援	個別指導	1日あたり最大24枠 (1枠30分、予約制)	・「マンツーマンルーム」に て実施
保護者支援	個別相談		

(2) 各室の役割と内容

①スタディールーム（学習支援）

・小学4年生～中学3年生の動画授業が公開され、自由に視聴できる。

②ホームルーム（自己管理）

・はじまりの会やおわりの会、自主学習及び取り組んだことの確認を行う。スタッフに対する質問も可能。

③イベントルーム（社会性・自主性の育成）

・毎月、イベントを通して児童・生徒同士の交流を促し社会性を育む（興味関心、得意な
ことを見つけるコンテンツを提供）。

④リラックスルーム（居場所作り）

・スタッフと児童・生徒が音声やチャットをとおして会話を楽しむためのプログラム（ゲ
ーム等）を提供している。

⑤マンツーマンルーム（相談・学習支援、保護者支援）

- ・児童・生徒や保護者がスタッフと1対1で学習指導や相談を受ける。

（3）事業開設日時

①開設日 週3日（月・水・金曜日）

※原則として、土・日曜日、祝日、年末年始、区立学校の春季・夏季・冬季休業期間中は除く。なお、休業期間等において開設する場合は、別途案内する。

②開設時間 午前11時～午後3時

（4）説明会の開催

希望する児童・生徒に対し、申込み前にオンラインでの事業内容説明、実際のオンライン環境での各メニュー画面の確認をしてもらう機会を設けた。また、利用申込・利用決定を受けた後、利用開始前に初回面談（児童・生徒、保護者、スタッフ）を行うとともに、利用体験を行った。

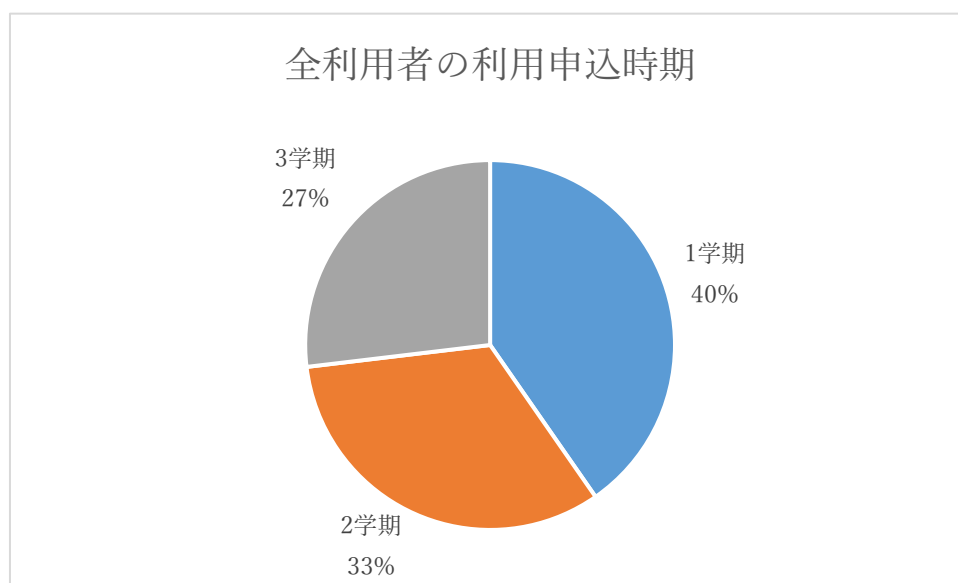
（5）事業に参加した児童・生徒の出席扱いについて

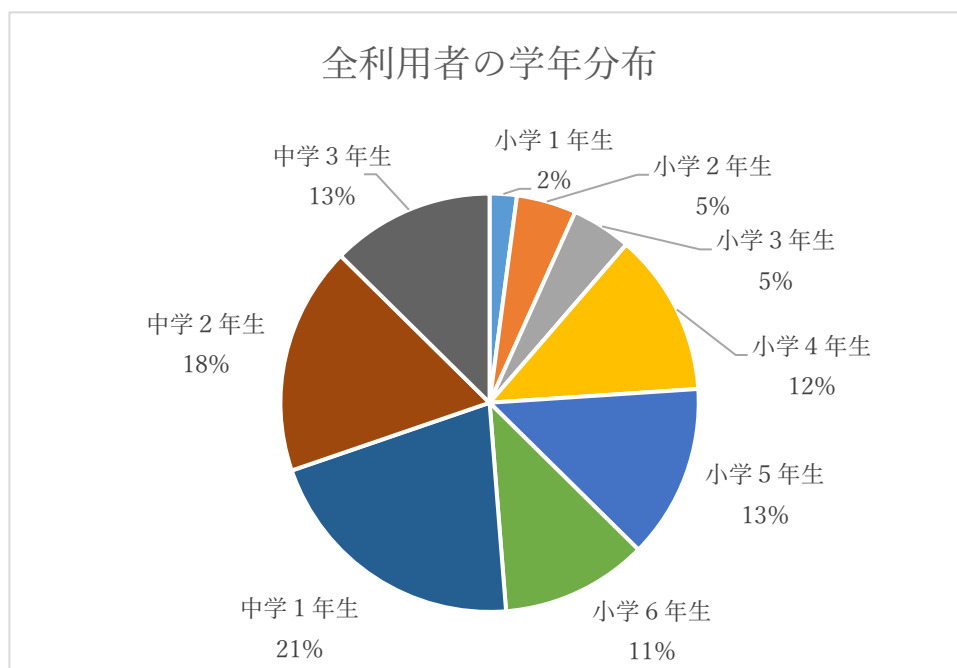
学期毎に教育相談課長より当該児童・生徒の在籍学校長あてに出席日等を報告し、該当児童・生徒について出席扱いとしている。

3 事業実施状況

（1）全利用者238人の内訳

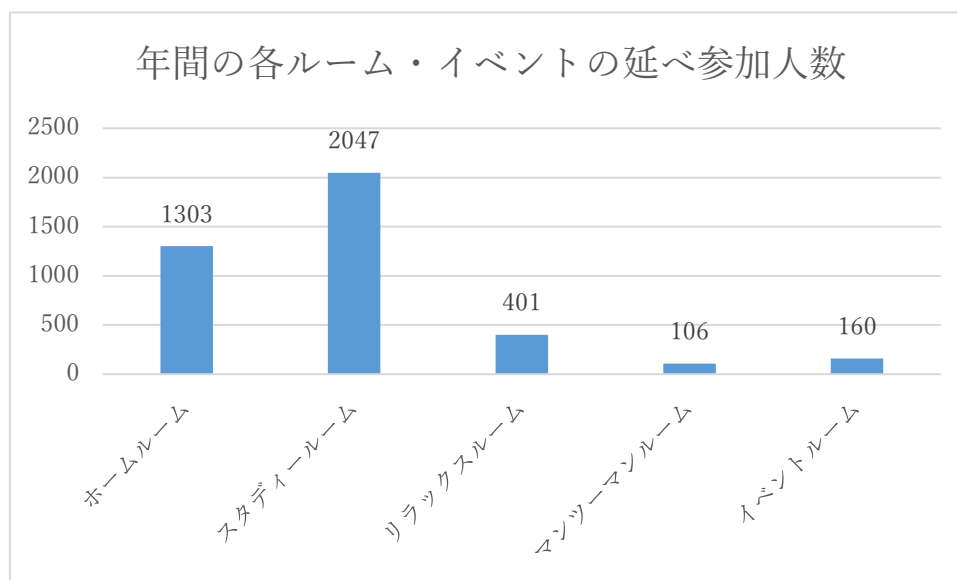
利用者は、運営開始時に40%弱が申し込み、その後、随時受け付けている。





(2) 児童・生徒の出席状況

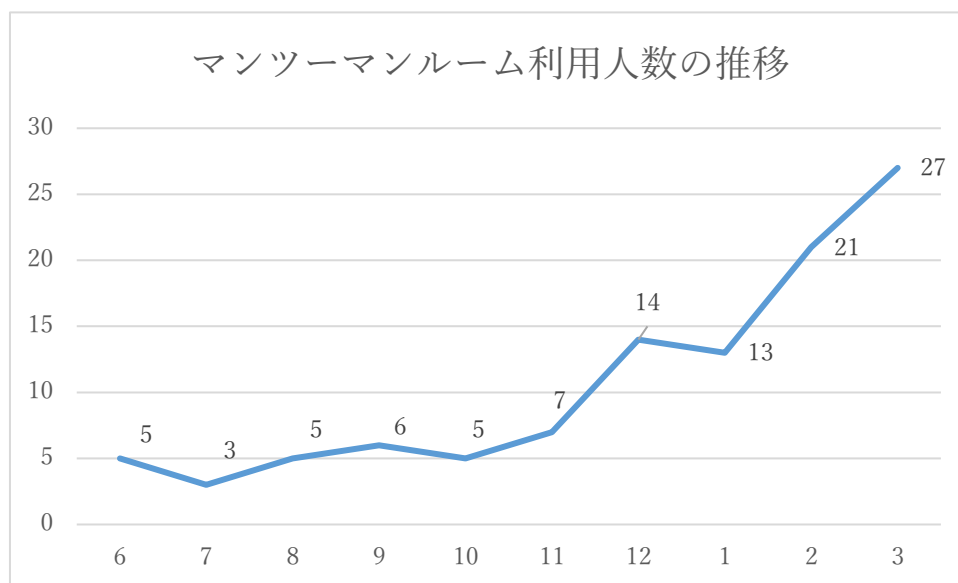
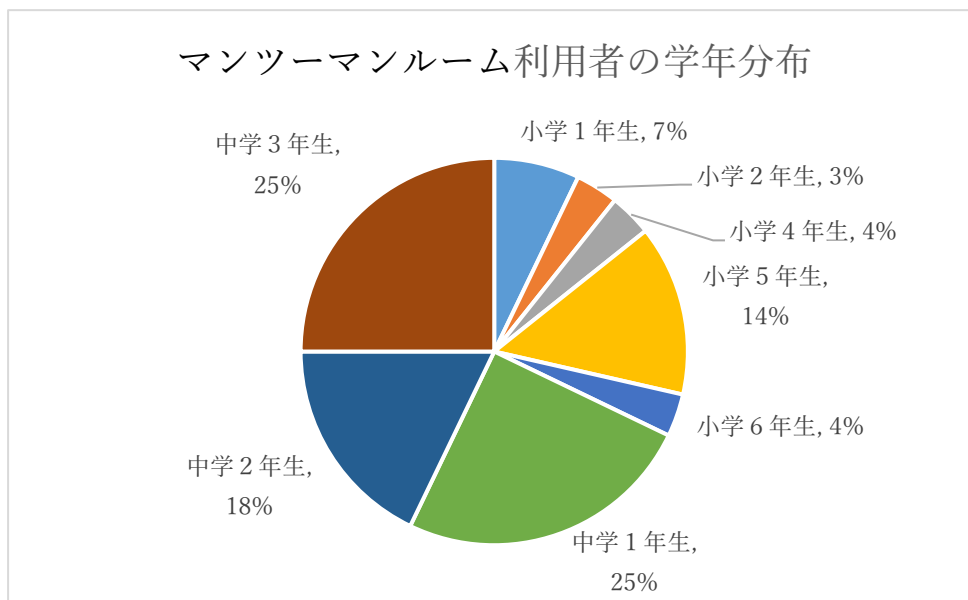
令和5年度の児童・生徒の総出席日数は3,667日だった。総開催日数107日のうち、70日以上参加した児童・生徒が10人いる一方、10日以内の出席に留まった児童・生徒が多かった。



ログアウト時の
児童・生徒から
のレポート数に
より集計

(3) マンツーマンルームの利用

スタディールームの動画視聴で理解できなかった部分の補習のために、マンツーマンでスタッフに質問する部屋を設けている。利用は月ごとに増えている。

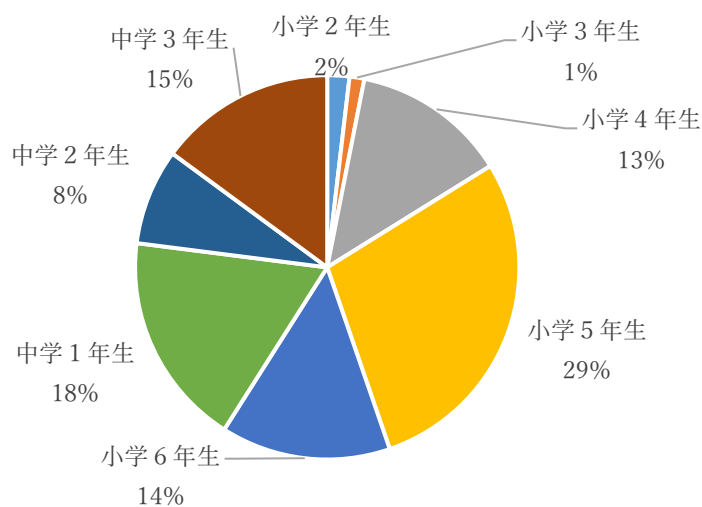


(4) 参加促進のための取組み

児童・生徒の興味を引くようなプログラムを提供しており、徐々に参加する児童・生徒が増えている。小学生の利用が多い。

月	体験プログラム（イベントルーム）の内容	参加人数
7	写真のヒントからさがせ！！謎解きゲームイベント	12
8	回文で遊ぼう！「まさか！さかさま？」さかさ言葉の世界へようこそ	6
9	転校生がやってきた！～さてどこからきたでしょう？～	13
10	にほんごであそぼう～漢字ひらがなイベント～	11
11	みんなで東京探索	12
12	旅するパフォーマー ～一緒に世界旅行を楽しもう～	27
1	びっくり人体～人の体を知ろう～	23
2	アナグラムを楽しもう～言葉遊びの世界～	30
3	にほんごであそぼう～漢字ひらがなイベント～	27
	合計	161

体験プログラム（イベントルーム）参加者の学年分布



(5) 令和6年3月実施のアンケート結果

全利用者にメールでアンケート用のフォームを送信し実施した。

アンケート回答数（98人回答） 良かった点について：84人

改善点について：64人

児童・生徒の声
自分で利用できるようになりました。上の学年の講座にも興味があり、たまに視聴しています。
オンラインで、自宅で、1人でなく定期的に学習する機会がもてたこと。
3学期から週に2～3回、授業を選んで出席するようになりました。
マンツーマンでの指導がどの先生もわかりやすく良かったです。イベントも楽しく参加しました。
リラックスルームの指導員の方が、うまく皆の話を繋いでくれたりするので、初めは傍観のみだったが、次第に自分からチャットを打ったりできるようになった。
なかなか入れなくても、急かしたりせず、待ってくださるのは大変助かります。

保護者の声
いろいろなことに積極的になり、マンツーマンルームの個別学習指導を楽しみにしている。
気持ちが学校へ向けない時、このほっとルームに参加出来る事は、本人もとても心強かったようです。ありがとうございました。
・1年生の授業にも参加できる。 ・出たい授業が無い時は自習でも良い。 ・世田谷区が不登校児を支援してくれている。
オンライン授業は楽しいようで、問題に答えられたよなど報告してくれています。オンラインがあることで本人の救いとなっています。
オンラインの授業に参加が可能なことで、過度なプレッシャーから解放されたようです。
オンラインに参加してから、少しですが人との関わりを取り戻してきています。
訳ありで不登校になっている生徒に対して、出席日数等の補填できる選択肢を与えてくれる試みはとても有意義だと思いました。
顔出ししないところが居心地良かったようです。

<保護者相談が果たしている役割>

- ・保護者に対しても細やかな対応が可能である。

ご意見
細やかに連絡を頂戴できる。
カウンセリングを2回利用したが、丁寧な聞き取りで、ありがたいと感じています。

4 今後の取組み

アンケート結果にもあるとおり、不登校児童・生徒、保護者から前向きな意見をいただき、効果を確認できた。一方、事業開設日における実際の参加人数が伸び悩んでいる傾向があることから、以下のように取り組む。

- (1) 利用申込・利用決定を受けた児童・生徒のうち、利用のない児童・生徒について、個々にフォローし、他の支援に繋げる等、切れ目のない支援を行う。
- (2) Z o o m環境からメタバース環境に変更する。(令和6年6月～予定)

【想定されるメリット】

アバター（※）を活用することで、より気軽に参加しやすい環境を整備する。

メタバース導入によりオンライン事業への参加の敷居を低くする。

※アバター：仮想空間内で、自分の分身としてのキャラクター、オンラインゲームを利用する際には一般的に利用される。

- (3) 周知方法について、小・中学校校長会等での定期的な事業周知を行うとともに、学校緊急連絡情報配信サービス（すぐーる）を活用して情報発信回数を増やす。